



No.102
2020.3.10

SEA NEWS



- | | |
|---|---|
| ① …新型コロナウイルスの感染拡大防止について (公財)埼玉県サッカー協会 会長 鈴木 茂 | ⑤ …昌平高校・藤島崇之監督 インタビュー (続き) |
| ② …「埼玉県サッカーコーチアカデミー」技術委員会・山崎 勉3種技術委員長 インタビュー | ⑥ …昌平高校・藤島崇之監督 インタビュー (続き) |
| ③ …技術委員会・山崎 勉3種技術委員長 インタビュー (続き) | ⑦ …大会記録●県内大会 2種・3種クラブ・4種 |
| ④ …「第98回全国高校サッカー選手権大会」昌平高校・藤島崇之監督 インタビュー | ⑧ …大会記録●県内大会 女子 ●県外大会 女子・フットサル インフォメーション 編集後記 |

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

新型コロナウイルスの感染拡大防止について

(公財)埼玉県サッカー協会 会長 鈴木 茂

JFA からの通達を踏まえ、(公財)埼玉県サッカー協会は主催のすべての会議・イベント等について、それぞれの開催の必要性を再度慎重に検討した上で、原則として延期・中止をお願いいたします。

種別委員会、専門委員会におかれましては状況を鑑み、当該大会等の役員でご検討の上、選手・指導者・スタッフ・関係者・観客、すべての皆様の健康と安全を第一に判断をいただき、万全の態勢で取り組んでください。

■緊急メッセージ

多くの皆さんが盛り上がり少ない週末を迎えたのではないのでしょうか。Jリーグもですが、SFAとしても主催事業は中止もしくは延期としました。ご理解をお願いします。

稀にみるこういう状況だからこそ、目の前のことだけでなく「その先」のことも視野に入れなければならないのではないのでしょうか。

サッカーの世界ではよく「想像力を働かせろ」という声を聞きます。相手チームとの対戦ですから、自分たちがやりたいことが必ずしもできるわけではありません。もちろん自分たちにもミスはあるでしょう。そこで「想像力」なのです。様々な想定をして準備をして試合に臨むのです。例えば残り10分、0対1で負けている場合どうするのか。試合ですから「絶対」はないのです。「そんなことまで考えなくても」と思われるようなことでも、想定内であれば、万が一不測の局面にぶつかっても、慌てずに冷静に対応できるはずです。

そう、慌てないためにも今一度、自分の生活リズムを再確認してみませんか。睡眠と休養、栄養補給はしっかりできていますか。うがいと手洗いは徹底していますか。マスクをするのはエチケットです。今は誰かが咳き込むだけで周囲の人を不安にさせてしまいます。そこで想像力を働かせてみませんか。今、自分が何をしなければならないのか、と。サッカーが終わる訳ではないのです。だからこそ「その先」を見据えて行動しましょう。

※埼玉新聞「(公財)埼玉県サッカー協会だより」(3/6掲載・No.533)より転載

ヒントを与えたい～「埼玉県サッカーコーチアカデミー」の4年目を終えて

技術委員会・山崎 勉3種技術委員長(越谷市立千間台中学校)インタビュー

100号において、浦和レッズ・立花洋一代表取締役と大宮アルディージャ・森 正志代表取締役をお迎えして開催した特別座談会「裾野を広げる」～SFAと共に～において、育成年代への指導について強い要望をされました。今回、その一端として技術委員会が取り組んでいる「埼玉県サッカーコーチアカデミー」をご紹介します。

本当の指導を知ってほしい

—今回は「埼玉県サッカーコーチアカデミー」について、改めてご紹介していただきたいのですが、その前に今回の全国高等学校選手権大会に出場した昌平高校について、お伺いしてよろしいですか。

山崎 はい。今回の昌平高校は、どのチームに対しても果敢に攻めていました。選手たちのプレーから、攻守ともに相手より優位なポジションをとり続け、難しい局面においても“個”でも打開できるという、実感、期待を持たせてくれました。同校のグラウンドで練習しているFC LAVIDAからの選手たちだけでなく、他チームからも入ってしっかり融合できている彼らを見ていて、ここまでやれるんだと頼もしく思ったものです。特に柴(主汰)くんは、伊奈の小針中学出身。私が中体連所属ということもありますが、中体連の選手たちにも、まだまだ可能性があることを示してくれたのは、うれしかったですね。

戦術的な面で具体的に言えば、一人ひとりのプレーの判断が速く、その場面その場面で緩急を上手く使い分けていました。そのため相手は後手後手に回ることになり、昌平の選手たちは自分たちの時間を作れていましたね。さらに控え選手に流れを変えられるメンバーがいるというのも、大きなポイントだったと思います。

彼らを見ていて、改めて『将来のことはわからないな』と思いました。だからこそ、可能性のある彼らにどのような環境を与えていけばいいのかを考えてしまうのです。才能があっても開花せずに終わってしまう選手もいます。指導者としては、どのように刺激を与えられるのか。指導者個人の今までの経験だけでな



山崎 勉 3種技術委員長

く、本物の指導を知ってほしい、学んでほしいという願いはありますね。

—そこで、「埼玉県サッカーコーチアカデミー」を始められたんですね。

山崎 そうです。2016年から始めて、4年経ちました。2015年に「SFA NEWS」(79号)で技術委員会のメンバーによる座談会を開催していただき、その際に出た話題……3種年代の指導者間の交流をしたいということから、当時浦和レッズにいらっしゃった村松さん(浩氏・現 浦和学院高校サッカー部監督)と大宮アルディージャの中村さん(順氏・育成部長)と意気投合したんですよ。



——企画そのものがお役に立てて、なによりです。

山崎 お二人とも、もともと「情報発信をしなければならない」とか、「学びたい人たちの受け皿づくりをしなければならない」と考えていらっしゃったんですね。また、我々技術委員会にとっては、指導者の資質向上は当時も今も喫緊の課題です。そこで両クラブのご協力をいただき、年5回、土曜日の夜に2時間程度で行うようになりました（2019年度は7月～9月）。

——簡単に内容をご紹介しますいただけますか。

山崎 レッズからは今は土橋さん（正樹氏・ジュニアコーチ）に来ていただいています。だいたい土橋さん自身がスタッフとして関わっているナショナルトレセンの落とし込み、もしくはB級・C級ライセンスのカリキュラムからの抜粋をしていただいています。アルディージャからは、クラブコンセプトのプレゼンがあったり、中村さんが「なでしこジャパン」のコーチだった頃は、「なでしこジャパン」の話もしていただきました。今年度は岡本さん（隆吾氏・ヘッドオブコンディショニング）にフィジカル、コンディショニングの話をしていただきました。

共に志向が違うので、両クラブから話を聞けるという機会は、育成年代の選手を預かる者として、非常にありがたいものです。

ただ、1年目と2年目は3種にこだわって開催していましたが、3年目からはニーズも高まったので、種別を問わないようにしました。今はほぼ半数の受講者が4種の指導者の皆さんです。現在は、皆さんの趣向の変化に合わせてながら、2種、3種、4種それぞれに提示できるような内容にしていきたいと考えています。

“肝”をつかんで帰ってほしい

——ちなみに趣向の変化というのは、どのように感じていらっしゃいますか。

山崎 少し前ならば「どういうトレーニングをするんだろう？」という興味で受講されて、持って帰ったメニューをそのままコピーして実践する方が多かったように思います。それが、今はコピーするのではなく「ヒントにして実際の現場でやってみよう」という指導者が増えましたね。多くの指導者が受け持っている現

場は、レッズ、アルディージャのレベルの選手がいないのですから、少しオーガナイズを変えたり、強度を弱めたりなど「目の前の選手たちに合わせた取り組みをしている」という話を耳にします。

そう、ヒントを与えたいのです。あるレベルの選手を想定してメニューを考えていますが、難しいことをわかりやすくするなど、レベルに合わせてアレンジすることが大事なのです。この「埼玉県サッカーコーチアカデミー」では、その“肝”をつかんで帰っていただければいいなと思っています。

——多分、受講された方々は、すでに良さを理解してくれていると思います。しかしながら、まだ受講されていない方々のほうが多いと思います。そういう方々にメッセージをいただけますか。

山崎 技術委員会の強化対策部会長の荻野清明さん（浦和東高校）から「リフレッシュポイントにならないのに、これだけの人たちに来ていただけるなんてすごいことですよ」と声をかけていただきました。毎回、大勢の皆さんに集まっていたけるのは、本当にありがたいことです。

イメージとしては、自チームの練習や試合が終わった後に「ちょっと寄ってはいかがか」「少し勉強しとくか」くらいの感じでいいと思っています。そのくらい気軽に参加していただければいいのかなと。

参加者の皆さんからは「指導者同士の交流ができてよかった」という声をよく聞きます。必ず講義でも、指導実践でもディスカッションをする時間を設けています。そこで意見をかわし合うことで、いろいろな考えに触れ、また刺激を受けられるのが楽しいと。ただ一番うれしいのは「育成について、意識を高く持てた」という声です。チームとして勝つこと以上に、選手が持っている能力、才能を引き出してあげることが大事ということに気づいてもらえれば、ありがたいですね。そして、ここをステップにして、B級、A級ライセンスの取得を目指してほしいと願っています。

——ぜひ来年度は、もっと多くの指導者の皆さんが参加されるよう、サポートをしてみたいです。今後もよりよい指導者育成を続けてください。ありがとうございました。次号から、浦和レッズと大宮アルディージャのご協力をいただき、両クラブの育成指導現場を紹介してみたいです。



積み重ね～チームのベースは「相手を見る」～

第98回全国高校サッカー選手権大会

昌平高校・藤島崇之監督

第98回全国高校サッカー選手権大会。昌平高校が埼玉県代表として、近年にないインパクトを与えてくれた大会となったと言っても過言ではないでしょう。浦和駒場スタジアムでの大歓声は可能性への期待だと感じました。この一年を振り返っていただきました。（聞き手、広報委員・荒川裕治）

新人戦の優勝。しかし、その後二度も2回戦負け

——ベスト8で終わったものの、高校選手権大会での内容は素晴らしいものでした。ただその結果の前に、この一年の流れをお話いただけますか。



昌平高校・藤島崇之監督

藤島 今年度も新人大会で優勝することができましたが、昨年のチームも新人大会で優勝しました。流れとしてはそこからですね。

振り返って、スコアだけを見てもらうと余裕がありそうに思われたでしょうが（vs 熊谷工業 7-0、vs 西武文理 9-0、vs 西武台 6-0、vs 正智深谷 3-0で優勝）、こちらとしては試合内容に関しては、正直「やばいな」という感じでした。「これは厳しい年代だな」と思ったんです。

です。それまでも各地でのフェスティバルなどではそこそこの結果を出していましたが、内容がまだまだ。ですから新人大会の優勝後に選手たちに声をかけたのは「優勝そのものはいいいことだけれど、一喜一憂することなく切り替えて行こう」でした。

そんな中、3月に参加させていただいたフェスティバルの中で徐々によくなってきたのですが、関東大会県予選は2回戦で埼玉栄に負けてしまいました（2-3）。私が全国高校選抜のスタッフとして渡欧していたものの、チームとしての準備はしっかりできており、試合内容もダメだったわけではありませんでした。ただ、勝負の厳しさの部分をプレーで実践することができていなかったんです。

続く高校総体県予選は、2回戦で正智深谷との対戦となり、試合では早くに先制されてしまいました。結果的にもっとじっくり行けばよかったのですが、早くゴールが欲しかったんですね。なので、仕掛けを早くしたのですが、ボールを奪われたところで長いボールを蹴られ、それを納められたことでこちらとしての攻撃の形を作ることができませんでした。悔しかったですね。悔し

かったですけれど、悲観的にならず、いいところを見つけて選手たちにはアプローチしました。

そうそう、予選明けのS1リーグ戦の相手が正智深谷でしたが、そこではやり返したんですよ（笑）。グループでしっかりボールを保持して戦ったら、内容も結果も出ました（2-0）。この試合に勝ったことで、選手たちが地に足をつけて戦えるようになってきたような気がしました。

ただそうは言っても、ここしばらくベスト4のところだったのが、2大会連続で2回戦負けというのは……。再確認して高校選手権大会県予選に臨みました。その間、野洲（滋賀県）のフェスティバルに参加して、神村学園や今回優勝した静岡学園とも試合をしました。静学とは決勝で戦いましたね。

——その期間で目指したものはどのようなことだったのですか？

藤島 ゲーム内容の充実です。結果的にですが、高校選手権大会県予選の組み合わせは厳しかったのですが、焦れずに、ブレずに戦い、どの試合もゲームコントロールができたと思える内容でした。とはいえやはり県予選に入るまでの結果も重要で、フェスティバルなどを通じてチームとしてやってきたことを再確認できたことは大きいと思います。ですから、春からの伸びとしては、県内トップだったと思っています。

おかげさまで注目される選手がいて、新人大会に勝ったものの春先はチームとしての完成度は全くと言っていいものでした。やはり夏になって個人、グループ、そしてチームとしてもそれぞれ課題に取り組んでくれた結果が県代表に繋がったと思います。

相手を見る。状況判断能力の向上

——もう一つ、その藤島監督の言う「再確認」というのは？

藤島 積み重ねの大切さの「再確認」です。個で打開できればいいのですが、それが単発であればいい形になりません。そこでグループとして複数の選手が関わらなければなりません……個とグループの融合でしょうか。

元々、システマチックなチームを作る気はありません。結局、その場その場の判断は選手がすることです。「相手を見る」というのが、チームのベースです。相手が何をやりたいのか、相手は何ができるのか……その上でボールはどこにあるのか？ 自分たちのポジションは？ 例えば、中央にスペースが空いているのに





サイドばかり突いても仕方ありません。大切なのは、状況を判断・把握する力です。それを積み上げていっているだけなのです。

そういう力は、LAVIDA（ジュニアユース）でも指導していますが、高校になってからも意識を高く持つことで選手は上手くなるとしています。ただ、仕掛けの意識とかを中学時代に取り組んでいないと難しいですね。やはり中学時

代にやってきたことがあっての“積み上げ”ですからね。

——積み重ね。大事なことですが、難しい課題ですね。少し話は前後しますが、先ほど高校選手権大会県予選の話が少し出ていました。結果的には、ほぼ完勝という形で県代表になりましたね。本大会に向けて、そこからの一ヶ月でも“積み重ね”があったと思います。

藤島 いえ、本大会の前にプリンスリーグ関東の参入戦がありました。県予選が終わった後は切り替えて、参入戦に集中していました。やはり日常のリーグ戦で、Jクラブを含めた格上の相手と戦えるというのはモチベーションが上がります。どうしてもプリンスリーグに昇格したかったんです。振り返れば、けが人が多い年でしたが、おかげでリーグ戦ではいろいろな選手を試すことができましたし、その中で成長してくれてチームとしての底上げができていました。だから参入戦にも自信を持って臨みました。

——結果は見事昇格でした（1回戦 昌平高校 4-0 水戸ホーリーホックユース、決定戦 昌平高校 3-0 ジェフユナイテッド市原・千葉U-18 ※5年ぶりプリンスリーグ関東昇格）。しかし、続く全国高校選手権大会の日程を考えるとタイトでしたね。

藤島 確かに6日後に1回戦があるというのはきついですね（決定戦は12月25日で1回戦は12月31日）。いろいろとご意見はあるでしょうが、それでも参入戦というのは刺激がありますし、本気度が違いますから、決してマイナスだけではないと思います。ただ、今回は年明けの2回戦からの出場でしたから、昇格を決めた後、少し間がありましたので全国高校選手権大会に向けてもいい入りができたと思います。

おかげさまで、今回3回目の出場とあって経験値も上がったと思います。参入戦が終わった時点で全国高校選手権大会の準備を始めましたが、参入戦を含めて「トレーニングレベルで培ってきたものをしっかり出せば勝てる」という自信を持って試合に入ることができました。改めて、“積み重ね”、準備がすべてだと思いましたね。



——対戦相手によって、また1勝のために戦術を変えるという監督さんもいらっしゃいます。

藤島 それこそ先ほどの“積み重ね”だと思います。基本は日々のトレーニングでやっていたことです。この大会用に特別なことをやるよりも、自分たちがやってきたこと、得意な部分を出そうという考え方です。例えば、2回戦で戦った興國は個で打開してくるのはわかっていました。そういう相手にどこでプレスをかけるのかを選手たちには映像を使ってイメージさせてはいます。やはり様々な可能性を勘案して「想定内」にすることが大事です。想定外のことが起こると慌ててしまうものです。ただ、ウチとしてはプレッシングを含めてどれだけやれるか、でしかありません。

「気持ちじゃゴールは入らない」

——では興國、國學院久我山、そして青森山田戦を振り返っていただけますか。

藤島 興國については終始、ゲームコントロールができた試合で、相手に試合を通じてほとんどシュートを打たれなかったですね（2-0）。國學院久我山については、先ほどのプレッシングの話でいえば、選手たちはやりやすかったプレッシングスピードだったと思います。プレッシングというのは、早ければいいというものでもありません。（ボールを）取れそうで取れないという状況も必要です。距離感やコンタクトの強度の部分も関係しますが、その中で選手たちは持ち味を出してくれました。まあ、シュートは17本と打ったんですけどね（1-0）。

——國學院久我山はGKがよかったですからね。いい試合でした。さて、青森山田はいかがでしたか。

藤島 球際というか“キワ”の強さはありませんでしたね。（DFラインが）引いて対応してきます。とにかく固い。でも、スピード、早さはなかったですね。

その前に少しいいですか。ウチはプレーの自由度は高いと思います。例えば、何のために外に振るの？ というのが選手たちはわかっていますから。また局面が狭い方が良さを発揮できる。結果は結果として、発想やアイデアには答えがないじゃないですか。ですから選手たちがプレーしたことが答えなんです。

例えば選手が「サポートがないから（ボールを）取られました」と言ってきたら、「取られないでモノを言え」もしくは「取られる前にモノを言え」と言うでしょう。

上手い選手ほど攻守の切り替えは早く、（ボールを）取られたらすぐに取り返しに行きます。それは悔しいからです。切り替えの遅い選手は上手じゃないですよ。技術的に高い選手ほど、切り替えが早いです。こういうことを継続してやっていくんです。一度奪い取れば「できる」と思って、やるようになるんです。そういう成功体験をさせることも大事なことです。

質にこだわるのが大事です。試合でパフォーマンスを発揮す





るためにトレーニングするんです。よく言うんですけど「気持ちじゃゴールは入らない」と。まあ、そもそも気持ちがあるから、ピッチに立っていると思っています。

あと自分を客観的に評価できないと伸びませんね。「今日は全部ダメでした」——それじゃダメなんです。客観的な評価、「ここはできなかったけれど、ここはよかった」。そういうことが言えて、「次、こうしたい」という話が出てくるわけです。

——具体的に藤島監督としては、この客観的な評価ができるようにすべく、選手たちにどのようなアプローチをされていますか。

藤島 問いかけですね。例えばストロングポイントはどこなのか。本人に考えさせることです。

——その繰り返しですね。

藤島 そうです。あとチームとしての話を少しさせてください。主導権を握るというのは、プレーの選択肢をいかに増やすか。また相手にチャンスを作らせないということでもあります。相手との距離感、味方との距離感を大切にしながら、ボールを奪われたらすぐに回収に行くんです。それが興國との試合でも、國學院久我山との試合でもできていたと思います。そもそもサッカーの本質は相手との駆け引きの楽しさだと思っています。そのため前向きな（ボールへの）関わり方をしていこうと話しています。

——それで青森山田についてです。

藤島 青森山田ですが……プレミアリーグのチャンピオンであり、選手・チームとも方向性がはっきりしていて、フィジカルの

にも強いわけです。その相手に対して、前半はグループで人数をかけてせめて行こうと考えました。いわゆる遅攻です。それで押し込めたんです。ところが相手のDFが来ないんですよ。「（ボールを）持たせてもいいよ」って指示だったと思います。で、持っちゃったんですよ（苦笑）。それで自分たちでポジションを崩してしまって。誘い出されたんですね。これは僕のミスです。後半は前に進むために、攻撃的に行って流れはよくなりましたね（前半3失点したものの、後半2点を挙げたが、2-3で敗戦）。

そもそも選手たちが「青森山田は固い、なかなか前に行けない、こじ開けるのが難しい」と思ったのだと思います。そこで、ボールを持ったときに“守る”ようにこだわったような気がします。あとリスタートは警戒するようにと伝えていました。コーナーキックは避けるようにと。その避けるためにやったプレーがミスとなり、失点（2失点目）に繋がってしまいました。

まあ、青森山田の勝負強さを感じました。ゴールを奪い切るというか、“終わり方”を意識していたと思います。

——なるほど、そういうことがあったんですね。しかし、これも選手たちが相手を見て判断した結果ですよ。昌平らしさが出た終盤は追い詰めただけに、残念な結果ではありました。とはいえ非常に期待を持たせてもらった大会だったと思っています。今ある可能性もそうですが、これからに向けてもです。

改めて、“積み重ね”が大事だということを理解しました。来年度、プリンスリーグ関東を戦い、さらに飛躍してくれることを願っています。もちろん、他の高校も力をつけてプリンスリーグで戦ってくれば、さらに埼玉のレベルが上がることも期待しています。

最後になりますが、改めて埼玉のレベルをどう感じていらっしゃいますか。

藤島 県全体としてのレベルは高いと思っています。切磋琢磨する中で相乗効果も出ていると思います。また各校、いろいろなサッカーを志向されているので、こちらとしても判断要素が広がります。今回のベスト8も県内のリーグ戦、各大会で自信を持たせてもらったからだと思っています。来年度、トップチームはプリンスリーグ関東を戦うことになりますが、埼玉代表として自分たちのサッカーにこだわってやっていきたいと考えています。また来年度のS1リーグにはセカンドチームが参加しますので、その中で揉まれて成長してくれる選手が出てくることを期待しています。

——期待しています。ありがとうございました。



大会記録●県内大会

2種

令和元年度県民総合体育大会 兼 高校サッカー新人大会

2月8日～16日 NACK5スタジアム大宮他

昌平	3	4	5	0	0	2	聖望学園
武南	2	4	5	0	0	1	早大本庄
西武文理	1	0	1	0	1	6	正智深谷
花咲徳栄	0	0	1	0	0	0	浦和学院
成徳深谷	1	0	1	0	2	2	狭山ヶ丘
細田学園	1	0	1	0	3	3	埼玉栄
武蔵越生	3	1	0	1	0	0	越谷西
国際学院	2	1	0	1	4	3	西武台

※優勝は昌平高校



優勝 昌平高校



決勝 昌平 vs 西武台



準決勝 昌平 vs 武蔵越生

準決勝 西武台 vs 正智深谷

3種・クラブ

第29回埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会

12月7日～2月1日 熊谷文化スポーツ公園補助競技場他

大宮アルディージャ	0	0	3	浦和レッズ
アレグレ	0	0	1	HAN FC
クマガヤSC	4	1	1	坂戸ディプロマツ
JOGADOR	3	0	0	東松山ペレーニア
クラブ与野	1	0	0	FC深谷
GRANDE	1	0	0	ASAS
ACアスミ	1	1	0	コルージャ
LAVIDA	2	1	1	1FC

※優勝は浦和レッズジュニアユース

4種

第14回埼玉県第4種新人戦中央大会

1月26日、2月9日 くまびあ他

ダイナモ川越東FC	2	2	1	エリオスFC
FCクラッキ	3	2	2	東松山ペレーニアFCジュニア
レジスタFC[B]	1	0	0	大宮アルディージャU12
越谷サンシサッカースポーツ少年団	2	0	0	江南南サッカー少年団
プレジールスポーツクラブ入間ジュニア	0	1	1	Aitoku ReeM FC
レジスタFC[A]	3	2	3	エクセレントフィートFC
FC LIEN	6	4	0	FCリアル
HFCスポーツ少年団	0	0	2	浦和大谷ロサッカースポーツ少年団

※優勝はレジスタFC[A]



優勝 レジスタ FC[A]



準優勝 エクセレントフィート FC



決勝 レジスタ FC[A] vs エクセレントフィート FC



準決勝 レジスタ FC[A] vs FCクラッキ

準決勝 エクセレントフィート vs ペレーニア

